

LOVE

青あう

平成30年10月5日

第10号

他者肯定養成ギブス～お笑いコンビオードリー

若林 正恭さん

他人の視線を気にする自意識過剰から、何をするにも恥ずかしさが先立ち、人生を楽しめないでいました。30代後半になって、そんな性格が変わってきました。その変化を綴った「ナナメの夕暮れ」 若林さんの言葉をご紹介します。

ハロウィーンの仮装、学園祭に本気で取り組む学生、バーベキューを楽しむ若者。他人がはしゃぐそんな姿をバカにしながら10代、20代を生きてきました。

「他人を否定的にみることで、自分にはできないという劣等感をごまかし、自分を守ってきたのだと思います。他人への否定的な目線は、時間差で必ず自分に返ってきて人生の楽しみを奪う。」

そう考えるようになった若林さんは、30代から「肯定ノート」をつくり、自分がやって楽しいことを書いていくようにしたそうです。好きなこと・・・散歩、花火、プロレス観戦・・・。自分の好きなことが分かり、夢中になれると、他人の趣味も尊重できるようになりました。自分だけでなく他人を肯定することも書きました。「物事を否定的に認知するクセがあるので、それを正していく、体に覚えさせていくうえでは効果がありました。他者肯定養成ギブスを装着しているような気持ちだった。」

10月20日(土)青聾祭に向けて、各学部とも劇の練習が始まっています。中学部、高等部は生徒達の話し合いを経て、「みとめ合おう仲間の気持ち～学部をこえて心をつなぐ～」のスローガンを表現しながらも、自分自身を見つめ、他者とどう関わり生きていくかということを、一人一人が模索して創りあげていく内容になっています。

「他人を否定することで自分を守る」
人間は弱い生き物なので、誰もが経験することです。若林さんが書かれているように、そこに心の平安はありません。

「他人への否定的な目線は、時間差で必ず自分に返ってきて人生の楽しみを奪う。」
とても思慮深い言葉です。肯定する、受け入れること。自分の箱の中から出て他者を肯定することが、生きづらい自分を楽に、幸せにしてくれるのだと思います。

なかなか難しいことですが、若林さんのように「物事を否定的に認知するクセがあるので、それを正していく、体に覚えさせていく」自分なりの他者肯定養成ギブスを装着したい。子ども達にもそうあってほしいと願います。

※裏面に10月24日に開催される手話言語フォーラムの御案内を掲載しました。参加費は無料です。是非いらしてください。